



2015年2月号

今月のテーマは、
「蜂の巣岩」です。



今月は「蜂の巣岩」を紹介するよ！
紹介してくれるのは、本吉 洋一（もとよし よういち）さんです。

氷の大陸南極にも、岩石が露出している場所があります。そういった所を歩いていると、写真にあるような表面が穴だらけの岩を見かけることがあります。これらはその形から「蜂の巣岩」と呼ばれています。南極・北極科学館の入口にある大きな岩は、南極昭和基地から持ち帰った蜂の巣岩です。これは、南極での強い風が、風化によってもろくなった岩の表面にへこみを作り、へこんだ部分が飛んできた砂流によってさらに削られ、だんだんと穴が深くなっていったものと考えられています。ただ、すべての石に蜂の巣ができるわけではなく、同じ場所であっても、石の種類によっては全く蜂の巣が見られないものもあります。



本吉さんはどんなお仕事をしていますのですか？

南極大陸の岩石を研究しています。南極大陸の厚い氷の下には広大な岩盤があり、その一部が海岸沿いや内陸の山脈となって顔をだしています。そういった場所に出かけて行って、石の種類や分布などを調査します。また、持ち帰った標本を分析して、石がいつ、どういった場所でできたかを調べます。南極大陸には日本列島にはないような古い時代の岩石があり、地球の過去を知る上では重要なサンプルです。